

当社は1960年に設立し、自動車向けのプラスチック部品の成形、加工を手掛けています。コロナ禍で閉塞感のある中、少しでも元気な姿をお見せすることができるよう、新しいことに積極的に取り組んでいます。

今年6月に販売した樹脂製急須「十年急須」の開発をはじめ、経済産業省の「はばたく中小企業・小規模事業者300社」や「地域未来牽引(けんいん)企業」などにも選んでいただき、地域の皆さまからはその取り組みについて評価していただきました。その声を聞いた従業員のやる気にもつながっています。地域や社会にとつて「必要とされる会社」であること、そして、従業員にとつて「働きやすい会社」であることを常に心掛けて、プライドを持って働くことができる会社であり続けたいです。

働きやすい職場環境作りのため、従業員の意見を積極的に取り入れることを意識しており、社内に見聞箱を設置して情報共有しています。お客さまのごことばかり考えて、従業員の気持ちを蔑ろにしてしまったり、まらない会社になってしまいます。従業員を「仲間」と考え、「働いてよかった」と思ってもらえる会社を作りたいです。

世界的に海洋プラスチック問題やカーボンニュートラルが広がっている中で、プラスチックを作る会社としては、再生しやすい材料を使うこと、また、よりエネルギーロスが少ない製造方法に取り組むなど、一層

## 地域と従業員に必要とされる会社へ

鈴木化学工業所代表取締役社長 小幡和史



技術を高めていくことが必要だと考えています。将来的にプラスチックが使えない時代が訪れたとき、当社が持つ技術を生かし、会社として存続するための新たなアイデアを考えたいです。

現在、当社が力を入れている取り組みは、主力である自動車部品の製造です。中でも、水素自動車や電気自動車にも対応できる部品に積極的に取り組んでいます。また、十年急須やフェイスシールドなどのオリジナル商品の開発にも力を入れており、コロナ禍でもお客さまに喜んでいただけるアイデアを発信することを心掛けています。

当社の技術の特徴は、自動車部品の中でも人命にかかわる部品を多く手掛けていることです。寸法精度の高い製品を作れる設備も揃えており、従業員の育成にも力を入れています。社内には技能士の国家資格を持つ従業員が33人おり、当社の製品の品質向上につながっています。また、部品を溶かして接合させる溶着の技術も当社の柱となっています。

会社として新しいことに取り組むときに全社員が一体となって協力してくれる社風も、当社の大きな特徴です。従業員の育成に力を入れているため人材が定着し、人材が定着することで技術が受け継がれ、品質向上につながります。人材と技術の双方が充実しているからこそ、成長し続けることができると考えています。